

令和元年度 常葉大学教育学部附属橘小学校 学校評価書

本校の学校評価の項目

- 1 経営の重点（重点目標）に関すること
- 2 指導部に関すること
- 3 組織・運営に関すること
- 4 特色ある教育に関すること

1 経営の重点（重点目標）に関すること（児童の姿） 5：大変よくできた 4：よくできた 3：できた 2：あまりできなかった 1：大変できなかった

| 学校教育目標 | 生きる力を互いに高めあう児童の育成 ～三方よしの実践を通して～ | 自己評価 | 学校関係者評価 | 学校関係者委員会の意見 |
|---|--|------|---------|---|
| 重点目標 | <p>☆ 確かな学力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識・技能を身に付けた児童 ・思考力・判断力・表現力等の能力を付けた児童 ・主体的に学習に取り組む態度が身に付いた児童 <p>【学校説明】 定着度テストや校内実力テストの結果などから、概ね基礎学力が定着していると言える。課題提示の方法や手立ての工夫などにより、主体的に学習に取り組む姿が見られるようになった。思考力、判断力の向上には、個に応じた対応が不可欠であると同時に学び合いの場を意図的に設けることも必要である。</p> | 3 | 3 | <p>目標を絞ることはとても有効である。子供が分かる目標がいい。思考力、判断力の数値化はむずかしい。その評価はポートフォリオを使うといいのではないか。評価規準に子供の具体的な姿を記録しておくといい。</p> |
| | <p>【次年度の改善策】 思考力、判断力向上について、教師の評価基準を明確にすると共に、児童が思考、判断する際の視点を示し、確実に見届け、評価をしていく。</p> | | | |
| | <p>☆ たくましい心身</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を身に付けた児童 ・体力の向上を図り、健康で安全な生活ができる児童 <p>【学校説明】 基本的な生活習慣を概ね児童に身に付けさせることができた。</p> | 3 | 3 | |
| | <p>【次年度の改善策】 基本的な生活習慣を児童に身に付けさせるための効果的指導を模索していきながらよい実践を共有する。体力の向上を図り、健康な心身を育むために、朝や昼休みなど運動をする時間を確保できるようにする。</p> | | | |
| | <p>☆ 豊かな心</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の身になって考え・行動できる児童 ・協力して温かな人間関係を作ることのできる児童 ・感動する心をもった児童 <p>【学校説明】 日常の生活指導や道徳の授業を通して、概ね、相手の身になって考え・行動でき、温かな人間関係を築くことができた。</p> | 3 | 3 | |
| <p>【次年度の改善策】 相手の身になって考え・行動できたり、温かな人間関係を築けたりできるように、日常の生活指導や道徳の授業を通して指導を行う。</p> | | | | |

2 各指導部に関すること（児童の姿）

| | 生徒指導の目標 | 子供たちが楽しいと思える学校 | 自己評価 | 学校関係者評価 | 学校関係者委員会の意見 |
|------|---|----------------|------|---------|--|
| 学習指導 | <p>☆ 学習指導 学びの基本をしっかりと身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをもつことができる。 ・考えを発表表現できる。 ・丁寧に書くことができる。 ・学ぶ姿勢・習慣を身に付ける。 ・良い本を多く読むことができる。 ・家庭学習（日記）を習慣づける。 <p>【学校説明】 「正しい姿勢」を学習に対する態度と捉え、指導した成果が表れ始めた。今年度は「聞く・話す力を身に付けよう」を重点目標に掲げ、授業を中心に学校生活全体で取り組んだ。発達段階に応じて聞いたことを次につなげるための具体的な実践を積み重ねた。</p> | | 3 | 4 | 基礎基本ができていることは立派である。公立小ではなかなか日記指導はできにくくなっている。 |
| | <p>【次年度の改善策】 「聞く・話す」に関して「聞く」必然性を学年に応じて理解するよう働きかけていく。聞いたことを思考・発信につなげるようステップを踏んだ指導をしていく。</p> | | | | |
| | <p>☆ 図書館指導 学校図書館への期待感をもち良い図書館利用者の基礎を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本を読むことの楽しさを知り読書を習慣化する。 ・図書館情報を活用し、自分の課題や疑問を解決する力を身に付ける。 <p>【学校説明】 読書や学校図書館・委員会発信イベントへの関心が高く積極的に図書館を活用している。年度当初に教員向けのオリエンテーションを学年ごとに行い、課題解決力向上につながる活用方法や活用資料を検討するなど、見通しをもった取り組みにつなげていった。</p> | | 4 | 4 | 学級担任が図書館を利用した授業を年1回試みたらどうか。 |
| | <p>【次年度の改善策】 適切な資料選択の方法を理解し、自分の課題・疑問を解決する機会を意図的に設けていく。知的好奇心を刺激する本の紹介を学年に応じて行う。</p> | | | | |
| 生活指導 | <p>☆ 生活指導 基本的な生活習慣が当たり前ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・笑顔（橘スマイル）で挨拶ができる。 ・丁寧な言葉遣いができる。 ・身の回りの整理整頓ができる。 ・時間の自己管理ができる。 ・相手の話をしっかりと聴ける。 ・心身共に健康な体をつくる。 <p>【学校説明】 挨拶や丁寧な言葉遣いができるように指導した。よい実践は全体で共有した。朝礼での各月の生活目標の話の後に各学年での話し合いは効果があった。</p> | | 3 | 3 | |
| | <p>【次年度の改善策】 挨拶や丁寧な言葉遣いができるように指導を継続する。よい実践は全体で共有する。朝礼の後の各学年での話し合いは効果的であったので、継続していく。朝や昼休みなど運動をする時間を確保できるようにする。朝のバスの到着を7：55にできるようにする。</p> | | | | |
| | <p>☆ 防災・安全指導 どこにいても自分の身は自分で守れるよう行動できる態度と</p> | | | | 訓練とは別に防災の知識について大学の先生に講義 |

| | | | |
|--|---|---|-------------|
| <p>能力を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登下校の交通安全のために必要な事柄を理解し、自他の生命を尊重し安全に通学できる態度や能力をもつ。 <p>【学校説明】 登下校バスの指導や防災訓練のねらいは概ね達成できた。</p> | 4 | 4 | してもらったらどうか。 |
| <p>【次年度の改善策】 バスのトラブル対応は児童と教員の情報共有を図り迅速に対応する。実際に地震や火事が起きた場合どのようなことが起きるかの事例を事前指導で行い、本番を意識した訓練にする。常葉大学の先生、「あぶトレ」のNPOの方や警察の方などの専門家に御助言をいただきながら効果的な訓練ができるようにする。</p> | | | |

| | | | | |
|------|--|---|---|--|
| 生活指導 | <p>☆ 給食指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事に關する望ましい習慣を身に付ける。 ・会食をして望ましいマナーを身に付ける。 ・食事や栄養について正しい理解を深める。 <p>【学校説明】</p> <p>給食で児童が食事を摂る時間に放送委員会や児童会などの活動で校内放送を行う際、食事を摂る時間が十分に取れないことがあった。</p> | 3 | 3 | |
| | <p>【次年度の改善策】</p> <p>食事をとる時間や、指導を行う時間がとれるように努力する。</p> | | | |
| | <p>☆ 清掃指導</p> <p>正しい清掃の仕方を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃用具の正しい使い方を身に付ける。 ・一人一人が自分の役割に責任をもつ。 ・協力して掃除をすることの大切さを理解する。 ・黙って掃除をすることができる（黙働）。 <p>【学校説明】</p> <p>日課の変更で、清掃時間のカットが続いた場合、清掃が行き届かないことがあった。</p> | 3 | 3 | |
| | <p>【次年度の改善策】</p> <p>短縮日課が続いた場合は、各学年・学級で朝に行うなど対応する。年度初めに掃除用具の使い方を指導する。掃除用具の管理、修繕を行う。</p> | | | |
| | <p>☆ 保健指導</p> <p>自分の体に関心をもち、心身共に健康な身体を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活ができる。 ・外で元気に遊ぶことができる。 ・身体・衣類の清潔に努める。 ・身体と心のバランスについて学ぶ。 <p>【学校説明】</p> <p>手洗い、うがいを行う時間を確保し、学校だよりや保健だよりで、規則正しい生活について家庭へ呼びかけを行いながら健康的な学校生活が送れるように指導することができた。</p> | 3 | 3 | |
| | <p>【次年度の改善策】</p> <p>手洗い、うがいを行う時間を確保する。学校だよりや保健だよりで、規則正しい生活について家庭へ呼びかける。必要に応じて児童の生活習慣の実態を把握できるアンケートを行う。学級懇談会などでアンケート結果や分析を報告するなどして活用する。</p> | | | |
| 特別活動 | <p>☆ 特別活動</p> <p>楽しい学校を主体的に作ろうとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力して温かい学級づくりができる。 ・学校生活向上のための児童会・委員会活動ができる。 ・話し合いのルールを身に付ける。 ・話し合って計画を立てたり、問題を解決したりすることができる。 ・学校行事の目的を理解し主体的に参加をすることができる。 <p>【学校説明】</p> <p>学校生活を楽しく充実したものになるよう、児童会活動や委員会活動に意欲的に取り組む姿が見られた。児童集会では、クラスで協力する力、団結力を高めるために行っている「橘っ子大会」への参加が学級づくりに役立っている。今後も児童が活躍できる場を設定したい。</p> | 4 | 4 | |
| | <p>【次年度の改善策】</p> <p>次年度も、児童の創意工夫を生かした児童会活動を展開したい。かつ、時間的制約の多い本校の実態を考え、児童会役員及び各委員会の活動内容を見直す。</p> | | | |

3 組織・運営に関すること

| ・ 組織を生かし学校運営を一層機能化、効率化させる。 | | 自己 評価 | 学校関係者 評価 | 学校関係者委員会の意見 | |
|--|--|----------|---|---|--|
| 運営組織 | ☆ 重点目標達成のために組織的な運営を行う。 ・ 生徒指導主任が3部を統括する。 ・ 生徒指導部の3指導部が重点目標達成のためのPDCAを行う。 【学校説明】 生徒指導主任と担任の兼任は人材に限られている中では仕方がなかった。主任者会を週1回行い、児童の実態を把握したり各部会の内容を話し合ったりした。必要な内容は経営推進部へ伝達し、学校経営に生かせるように働きかけた。 | 3 | 3 | 生徒指導（学習、生活、特活）、研修の領域の関係がわかりにくい。 | |
| | 【次年度の改善策】 生徒指導主任と養護教諭等の役割等を分かりやすく見える化する。主任者会のレジュメを掲示するなど、他教員にも内容・活動を理解をしやすくする。 | | | | |
| | ☆ 各分掌の長がよりリーダーシップを発揮する。 ・ 各分掌の長がリーダーシップを発揮し効率的に運営を行う。 【学校説明】 各分掌の長が計画的に話の場を設けて運営ができ、リーダーシップを発揮できた。学習指導部は範囲が広いので各部会で話し合う内容が多かった。 | 4 | 4 | | |
| | 【次年度の改善策】 各分掌の長が計画的、効率的に運営するとともに、意見を言いやすい環境づくりを整え、各教員が役割を発揮できるように支援する。 | | | | |
| ☆ 会議の効率化を図る。 ・ 職員会議、運営委員会、打合せ等の役割を明確化し会議の効率化を図る。 【学校説明】 去年まであった職員会議をなくし、会議の精選を行い、効率化が図れた。会議の終了時刻を16:45の定刻で終わりにするなどして効率化を図れた。運営委員会に参加する職員が全員ではないので周知徹底するには課題が残った。 | 3 | 3 | 職員会議の内容は伝達が主なものになるが、職員全員が顔を合わせるのも意味がある。 | | |
| 【次年度の改善策】 運営委員会がなくなるので稟議に通す提案の練り合いをしっかりと行う。日頃から教員同士で情報を交換したり共通理解が図れたりする環境づくりに努める。 | | | | | |
| 研 修 | ☆ 研究主題「自ら学び、共に追究する子の育成」をめざし組織的な研究を行う。 ・ 研究推進部が研究の方向性を出し研究全体の推進役を担う。 ・ 研究教科部が授業研究の推進役になる。 ・ 研究主題を検証するための授業研究を行う。 【学校説明】 研究主題を達成するために年度当初に研究推進部が基本提案を行い、その提案に沿って各研究教科部がテーマを立てて組織的に研究を進めることができた。2020年度の新学習指導要領完全実施と同じく2020年度に行う授業研究会に向けて準備を進めることができた。 | 4 | 4 | 研究発表会を楽しみにしている。 | |
| | 【次年度の改善策】 研究教科部ごとテーマを定め研究授業を複数やり、来年1月の研究発表会時の提案授業につなげる。 | | | | |
| | ☆ 教育学部と共同で研究を深める。 ・ 大学の教員と共同で研究の方向性を協議する。 ・ 研究教科部が担当の大学教員と共に研究を行う。 【学校説明】 | 4 | 4 | 大学と連携できるのは附属小のよさであるのでもっとアピールした方がいい。子供の実態から教育はどうあるべきか、現場である小学校から大学へ発信したらどうか。 | |

今年度も6つの研究教科部（国・社・算・理・生・英）を立ち上げることができた。忙しい中、時間をつくって大学の先生に指導をいただくことができた。また、各教科必ず1回は提案授業を行い、その授業と事後研に大学の先生も参観・参加し指導をいただいた。

【次年度の改善策】 授業研究をする際は、大学の先生方と連絡を取り合い、できるだけ指導を受けるようにする。附属校のメリットを最大限に生かすようにする。

| | | | | |
|--------|---|---|---|--|
| 特別支援教育 | <ul style="list-style-type: none"> ☆ 特別支援教育の組織化を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導主任が特別支援コーディネータを兼ね業務を推進する。 ・支援を要する児童を掌握し支援計画をたてる。 ・特別教育支援員を配置し個別支援の体制を作る。 ・相談窓口を作る。 ☆ 専門性能力の向上を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・大学と連携し大学教員による指導を受け専門性を高める。 <p>【学校説明】 特別教育支援員が図工の彫刻刀の個別支援に入るなど、担任をサポートできた。支援を要する児童へのサポートの手が足りない。協力体制が不十分であった。大学の先生に講義をいただいたのはよかったが、大学との連携はまだ不十分だった。</p> | 3 | 3 | 生徒指導主任が特別支援コーディネータを兼ねることはいいこと。特別支援コーディネータは外部の機関と連携すること。早期サポートを受け、「すくすくファイル」を活用するとよい。 |
| | <p>【次年度の改善策】 支援計画を外部のものと統一した形にできないか検討する。必要に応じて外部機関との協力を図る。(静岡市特別支援教育センター等)</p> | | | |
| 志の高い教員 | <ul style="list-style-type: none"> ☆ 志を高くもち、自己研鑽に励んでいる。 <ul style="list-style-type: none"> ・共感的な心と笑顔にあふれる教員 ・わかる授業、楽しい授業のできる教員 ・強い信念と謙虚さをもった教員 ・感性、専門性を磨き常に進歩する教員 ・高い倫理観と高潔な精神をもった教員 <p>【学校説明】 校内の公開授業(中心授業)に向けて、各教科部で意欲的に取り組んだ。私学研(暁秀小)や関東研(洗足小)などに参加し、自己研鑽に励んだ。教材研究をする時間が放課後になかなか取れなかった。</p> | 4 | 4 | 観察実習で指導してもらった教員がいきいきとしている姿を見て教員になろうと思った学生がいる。教員のメンタルヘルスも考えた方がいい。 |
| | <p>【次年度の改善策】 自己研鑽することが人(児童、保護者、実習生等)のためになっていることを実感できるようお互いを褒め合う。仕事と休息にメリハリをつける。</p> | | | |

4 特色ある教育に関すること

| 特色ある教育(英語、オーケストラ、情報、書道)を行い成果をあげる。 | | 自己評価 | 学校関係者評価 | 学校関係者委員会の意見 |
|---|--|------|---------|--|
| 英語 | <ul style="list-style-type: none"> ・各学年に応じた英語の力を付ける。 <p>【学校説明】 日頃の授業で各学年に応じた英語の力が付いてきた。令和2年度から始まる新学習指導要領をもとに従来の本校のカリキュラムを見直し作成した。</p> | 4 | 4 | |
| <p>【次年度の改善策】 英語圏の文化に触れ、友達と体験的に英語学習を進めることで、コミュニケーションを図る基礎となる資質、能力を身に付け、積極的にコミュニケーションを図ろうとする子供を育てる。</p> | | | | |
| オーケストラ | <ul style="list-style-type: none"> ・各学年に応じた演奏技術を身に付け、合奏する楽しさを味わう。 ・オーケストラ学習が、児童同士の良好な人間関係づくりに寄与する。 <p>【学校説明】 各学年に応じた演奏技術を身につけ、合奏を楽しんでいる児童が多い。12月の発表会へ向けて、よりよい演奏を目指して授業に取り組む姿が多く見られた。曲の完成に向けて、学年の心がまとまる関係づくりにつながったと考えられる。</p> | 4 | 5 | 橘小しかできないこと。全国的なもの。学年ごと上手になっていることが素晴らしい。 |
| <p>【次年度の改善策】 来年度も継続して合奏の指導を行い、音楽の楽しさを味わわせる。オーケストラ学習発表会を開催し、各学年、全校の学びの成果を披露する場を設ける。</p> | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・各学年に応じた情報活用技術、情報倫理、プレゼンテーション能力を身に付ける。 <p>【学校説明】</p> | | | 教職大学院からの情報(NITS、教師力アップセミナーなど)を参考に研修したらどうか。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|-------------------------------|
| 情報 | 各学年、タイピングの技術が向上した。高学年においては、プレゼンテーションソフトを活用し、発表することができた。また、次年度から本格実施されるプログラミング学習にも企業のサポートを受けながら取り組み、次年度の取り組みの道筋をつけることができた。 | 4 | 4 | 基礎学力アップにタブレットは有効なので活用してもらいたい。 |
| 【次年度の改善策】 児童が無理なく、楽しく、パソコン活用技術やプログラミング的思考を高めることができるようにしたい。マイクロビット、プロロボ、メッシュを積極的に活用していきたい。 | | | | |
| 書道 | <ul style="list-style-type: none"> 各学年に応じた書写技術を身に付け、日本文化の素晴らしさを体得することができる。 【学校説明】 各学年に応じた書写技能を身につけながら、姿勢や鉛筆・筆の持ち方に気をつけて、意欲的に取り組む児童が多かった。対外的な作品の審査結果もよく、入賞者の励みとなった。 | 4 | 4 | |
| 【次年度の改善策】 鉛筆の持ち方・姿勢・筆使い・筆順・文字の組み立て方・文字の書き方に加え、日本文化のよさや日本語の美しさも学ばせていく。 | | | | |